

「メフィストワルツ1番」、ハデハデしくキラビヤカ、作曲家魅力のヴィルトーゾ作品。ヨーイドンのノッケから、アドレナリン全開の興奮度マックス、取り付けられたようなデモーニッシュ。パワフルなお祭り騒ぎ、エネルギー仕様、ヤラネバの緊張感ヒシヒシ。

ランチタイム・ジョイフルコンサート、50回記念のスペシャル。定員300名ほどのホール、立ち見が出るほどの盛況の熱気、演奏前に場内誘導がオン、などなどで僅かのメンタル齟齬、テンションの乗り遅れ、気が急きペースを失いそう。

物静かで穏やかな中間部、落ち着きの取り戻し、いつもの安定のピアノリズム。村娘のクローズアップ、ロマンチックな語りかけ、森の静寂と心情を描き切る。豊かなイマジネーション、あくなき丁寧で誠実スタンス、コンセントレーション、聴き手も安心し感情の共有。ナイチンゲールのさえずり、雰囲気の応援団、グラナドスさんの「ゴイエスカス」では色っぽさからの覚醒。

居酒屋の喧騒再びの後半部、中間部での集中力のままパワーアップ、微妙なスレ違いの修正。華々しい狂喜乱舞、熱いがクレバーなコントロール、没我的のめり込みなし。ハイテクニクのフル回転、アタマと運動神経の合致、綻びなくパーフェクト。クライマックスの爆発、小夜鳴鳥一頻り、静寂へコントラスト。(2017.5.27)